

「目賀田種太郎と近代日本」展では、6つの章で目賀田種太郎の生涯を紹介します。
ここでは、各章の見どころとポイントを紹介します。

第1章：目賀田家、江戸へ -目賀田氏の系譜-

中世にまで遡る目賀田氏のルーツや、目賀田城（滋賀県）を築城した目賀田貞政に関わる文書など、目賀田氏の足跡をたどる資料を紹介します。また、江戸時代の目賀田家の屋敷を地図などで紹介。ちなみに、目賀田家の屋敷があった「本所法恩寺前」は、現在のたばこと塩の博物館から徒歩10分ほどの場所です。

【展示作品】目賀田貞政の戦勝を祈願する願書（春日神社所蔵）

目賀田家の由緒を記した清浄院の書状（目賀田周一郎氏所蔵） [Photo. 02] など



Photo. 02

第2章：神童と呼ばれる -江戸、静岡、そしてアメリカへ-

目賀田種太郎は幼少時より「神童」とよばれるような才気をみせていました。英語と数学を主に学んだ目賀田はその後、静岡学問所の五等教授を経て、全国の秀才が集まる大学南校へ入学。そして初めての文部省による国費留学生に選ばれアメリカへと留学します。17才のときのことでした。この章では、目賀田の修行時代、そしてアメリカ留学時代の様子を同時代人の日記などから紹介します。

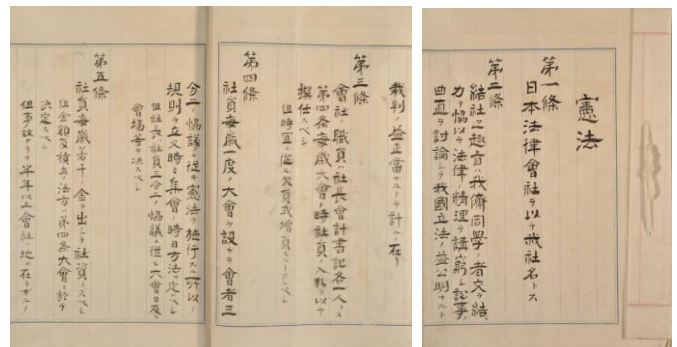


Photo. 03

【展示作品】

目賀田種太郎と一緒にアメリカに留学した松本莊一郎が記した亜行日記（大垣市奥の細道むすびの地記念館所蔵）
在米日本人留学生が設立した日本法律会社憲法（専修大学所蔵） [Photo. 03] など

第3章：日本の音楽と欧州の音楽を同化せよ

目賀田種太郎は2回目のアメリカ留学の際、文部省からアメリカにおける音楽教育の実態調査を命じられていました。そこで、東京藝術大学の前身にあたる東京音楽学校の初代校長を務めた伊澤修二とともに、当時の著名な音楽教師メーソンに師事し、西洋式の音楽教育の在り方を学び、日本に導入すべく奔走したのです。その様子を東京藝術大学が所蔵する資料で紹介します。

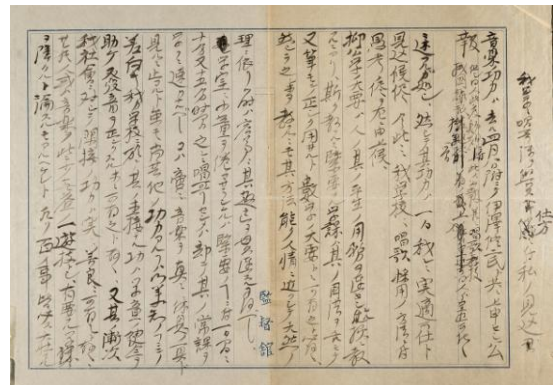


Photo. 04

【展示作品】

学校唱歌二用フベキ音楽取調ノ事業ニ着手スベキ、在米目賀田種太郎、伊澤修二ノ見込書（東京藝術大学附属図書館所蔵） [Photo. 04]、音楽教師契約書本文（東京藝術大学附属図書館所蔵）など

第4章：近代国家法学教育の必要性を説く

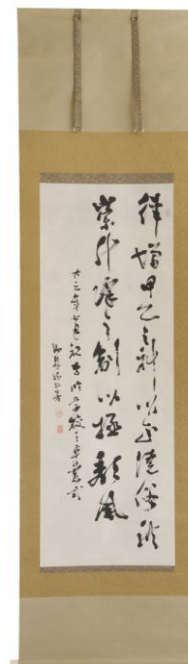
ハーバード大学で法律を学んだ目賀田種太郎は、法律の大切さとともに日本での法学教育の必要性を感じました。それが、帰国後の専修大学の設立につながります。ここでは、専修大学創立にまつわる資料や、目賀田を含めた専修大学創立に関わった4人の人物の業績、専修大学での目賀田の講義録などを紹介します。

【展示作品】専修大学の授業を行っていた明治会堂（専修大学所蔵）[Photo. 05]、
目賀田種太郎の岳父・勝海舟が専修大学卒業生へ送った言葉を記した書（専修大学所蔵）
[Photo. 06] など

Photo. 05



Photo. 06



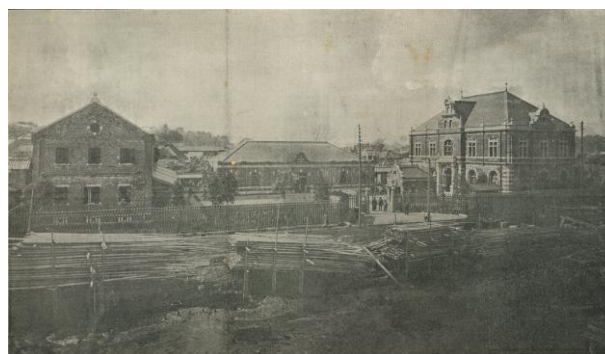
第5章：たばこや塩を国家財源に -大蔵官僚としての事績-

専修大学創立ののち、大蔵官僚になった目賀田種太郎。目賀田は、松方正義のもと、法律の知識を生かし、近代国家の元になる税制や、「たばこ」や「塩」の専売制度づくりに尽力しました。ここでは、大蔵官僚として、近代日本の礎となり現代にも続く税制、特にたばこの専売制までの道筋を詳しく紹介します。「たばこ」と「塩」の専売制に関係している目賀田は、当館にとっても、縁の深い人物といえます。

【展示作品】横浜葉煙草専売所事務所 [Photo. 07]

※横浜の赤レンガ倉庫の設計や日本橋の意匠を手がけた建築家・妻木頼黄（つまき よりなか）による建物。

Photo. 07



第6章：目賀田と愛荘町（あいしょうちょう）目加田

江戸で生まれ、その後、静岡に移りアメリカへと渡った目賀田種太郎ですが、帰国後も東京を本拠地としたため、自身のルーツである滋賀県の愛荘町目加田で暮らしたことはありませんでした。それでも目賀田はこの町をととても大切にしました。ここでは、目賀田氏が勧進した春日神社に残る目賀田種太郎や勝海舟に関わる資料など、目賀田種太郎と目加田をつなぐものを紹介します。

【展示作品】目賀田種太郎書「江南育英」（春日神社所蔵）[Photo. 08]
春日神社での記念撮影（春日神社所蔵）[Photo. 09] など



Photo. 08

Photo. 09



同時開催「専修大学図書館コレクション」展の見どころ

専修大学図書館は、創立以来、総合大学としての教育や研究に資するよう、さまざまな資料を収集してきました。そのコレクションは、図書約 182 万冊、雑誌約 22,000 誌にのぼり、まさに「知の宝庫」といえるものとなっています。コレクションは、フランス革命期に関するコレクション、江戸戯作コレクション、世界の名著や古典と評される図書など、多岐にわたっています。

今回の展示では、その中から、日本文化の「雅」と「俗」をテーマに、専修大学図書館が所蔵する版本や浮世絵など、和書を中心としたコレクションから約 100 点の作品をご覧ください。



Photo. 10

〔源氏物語画帖〕 3帖
〔道晃法親王〕 〔ほか〕 写 江戸前期



Photo. 11

修紫田舎源氏合巻（草双紙）
柳亭種彦作 歌川国貞画 鶴屋喜右衛門板
文政 12 年（1829）～天保 13 年（1842）刊